



発刊にあたって

日頃より、根室管内の主幹産業である酪農の健全な発展のために、ご努力いただきしておりますことに心より感謝申し上げます。

平成12年は、昨年に続き暑い日が続き、家畜の日射病が心配されたところですが、酪農家の皆さんは昨年の経験を生かし乗り切ってこられたものと思います。

また、昨年度早々「口蹄疫」が宮崎県をはじめ、北海道本別町にも発生し、さらに「雪印乳業食中毒事故」についても、生乳生産農家に大きな不安をあたえるなど、酪農・畜産農家をはじめ、各関係機関、団体など大変心配してきたところであります。今後とも生産現場での衛生管理には引き続き万全を期していただきたいと存じます。

さて、昨年度から新たに「中山間地域等直接支払制度」がスタートしたところですが、農業生産条件が不利な土地において、将来における持続的な農業生産活動を可能にするため、生産性の向上や、担い手の定着、生活環境の整備等の目的達成のための有効な制度として各集落、関係機関と連携をとりながら進めていかなくてはなりません。

また、飲用牛乳等の消費は、消費者の健康志向の高まり、新商品の増加等により着実に増加しておりますが、根室地域の酪農は、牛乳・乳製品の需要拡大に努める一方、乳成分の改善や、衛生的乳質の向上など、品質面の一層の向上を図りながら生産体制を整備していくことが必要です。

これから牛乳生産地としては、健康な家畜を育てるためにも、畜舎内の清掃や消毒を定期的に行い、栄養管理の徹底や、飼育環境の改善に努める等、衛生的でおいしい牛乳を生産することが専業酪農地帯の役割といえます。

この度発行する平成13年版営農改善資料（第29集）は、「仔牛の飼育施設」について編集したところですが、本資料が、幅広く酪農家の皆さんに活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、本資料作成にあたり、全面的にご協力いただきました南根室地区農業改良普及センターをはじめ、関係各機関の皆様にお礼を申し上げます。

平成13年2月

南根室地区農業改良推進協議会会長
(別海町産業振興部長) 加勢正司



編集にあたって

2001年を迎える、新たな気持ちで営農に励んでおられることと思います。昨年は酪農家及び関係者にとって非常に心配の多い年でありました。道内における「口蹄疫」の発生では、畜産農家にとって精神的、肉体的、経済的に大きなダメージを与える事を、「雪印食中毒事件」では生乳生産から加工販売に亘る過程での衛生管理が、いかに重要かつ危険である事を実感いたしました。

21世紀の酪農は、「食料・農業・農村基本法」、「家畜排せつ物管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づいた、環境保全を考慮した生産環境の整備、市場原理導入による生乳取引きに備え、生産原価を把握した「売れる商品としての生乳生産」へと変らざるを得ません。

酪農専業地帯の今後の発展は、消費者ニーズに応えた良質、安全、安価な高品質乳生産の継続が不可欠であります。

健康な乳牛こそ、期待に応える生乳生産が可能です。能力、経済性を備えた乳牛とするためには、分娩直後からの、子牛育成が極めて重要となって参ります。今回、営農改善資料第29集を発行するにあたり、「育成牛」に関わる施設、器具を中心に作成することといたしました。

健康、高能力、経済性を發揮する育成管理について、子牛の快適性に加え飼養者の労働、コスト面も考慮し、身近な改善例も紹介しながら作成いたしました。紹介例の中では、建設後あるいは使用後の長所や、更に工夫すべき点、快適性、改善コスト、労働軽減等様々な角度から検討を加えました。改善事例の提供、内容紹介に協力頂いた酪農家の皆様に厚くお礼申し上げます。本資料が酪農家及び関係機関職員の愛読書的なものとなり、育成牛施設改善、育成技術の向上に役立つことを願って止みません。

平成13年2月

南根室地区農業改良普及センター

所長 山下光治